

Ⅱ. 研究指定校における取組

研究指定校名 : 鳥取市立浜坂小学校

1. 学校の概要

学校名	鳥取市立浜坂小学校
学級数	21学級（うち特別支援学級：2学級）
児童生徒数	全児童数：543人（平成29年2月9日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/hamasaka-e

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

つながり合い 学び合う子どもの育成

～安心安全で安定的な自治力を高める学級・学校づくり～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校は鳥取市北部に位置した、市内有数の大規模校である。近年新興住宅地が開発整備された関係で、転居による児童数が増加しているところである。それにより地域や保護者のつながりも、希薄化している状況がある。

本校では長年、「志をもち、すすんで未来を切り拓く、心豊かでたくましい子どもの育成」を学校教育目標に設定し、学校づくりに取り組んできた。しかし、児童の実態として、「自尊感情が低い」「児童同士におけるコミュニケーション力が足りない」などの課題が見てとれ、これらは児童アンケートの結果からも裏づけられている。また、児童間のトラブル、不登校や問題行動もなかなか解決できない状況がある。その課題解消のために、ここ数年、分かる授業づくりやつながりを感じる活動の創造に力を注いできた。その結果、相手の立場に立って考えようとする態度が育ちつつあり、ペアやグループでの話し合いの中で児童同士がかかわり合う姿などが増えてきた。一方、日常生活で、児童が主体的に関わっていかうとする、いわゆる「自治力」の育成についてはまだまだ不十分な状況があった。

人権学習については、いじめの未然防止に向けた人権劇に取り組み、また、障がいのある人との交流学習をとおして、人権を尊重しながらともに生きることの大切さを実感しているところである。さらに、6年生では、修学旅行で見学した戦争歴史館で感じたことをもとに、人が命を尊重し合うことが人権を守ることの基本であり、普段の生活の中から考えていけないことを音読劇で発信するなど、人権教育における指導方法の基本原則である「協力」「参加」「体験」を中核においた学習の開発・実践に取り組んできた。

そこで、平成28年度は「学級づくり」「授業づくり」「人権学習の充実」を研究の柱とし、以下の取組を進めることとした。

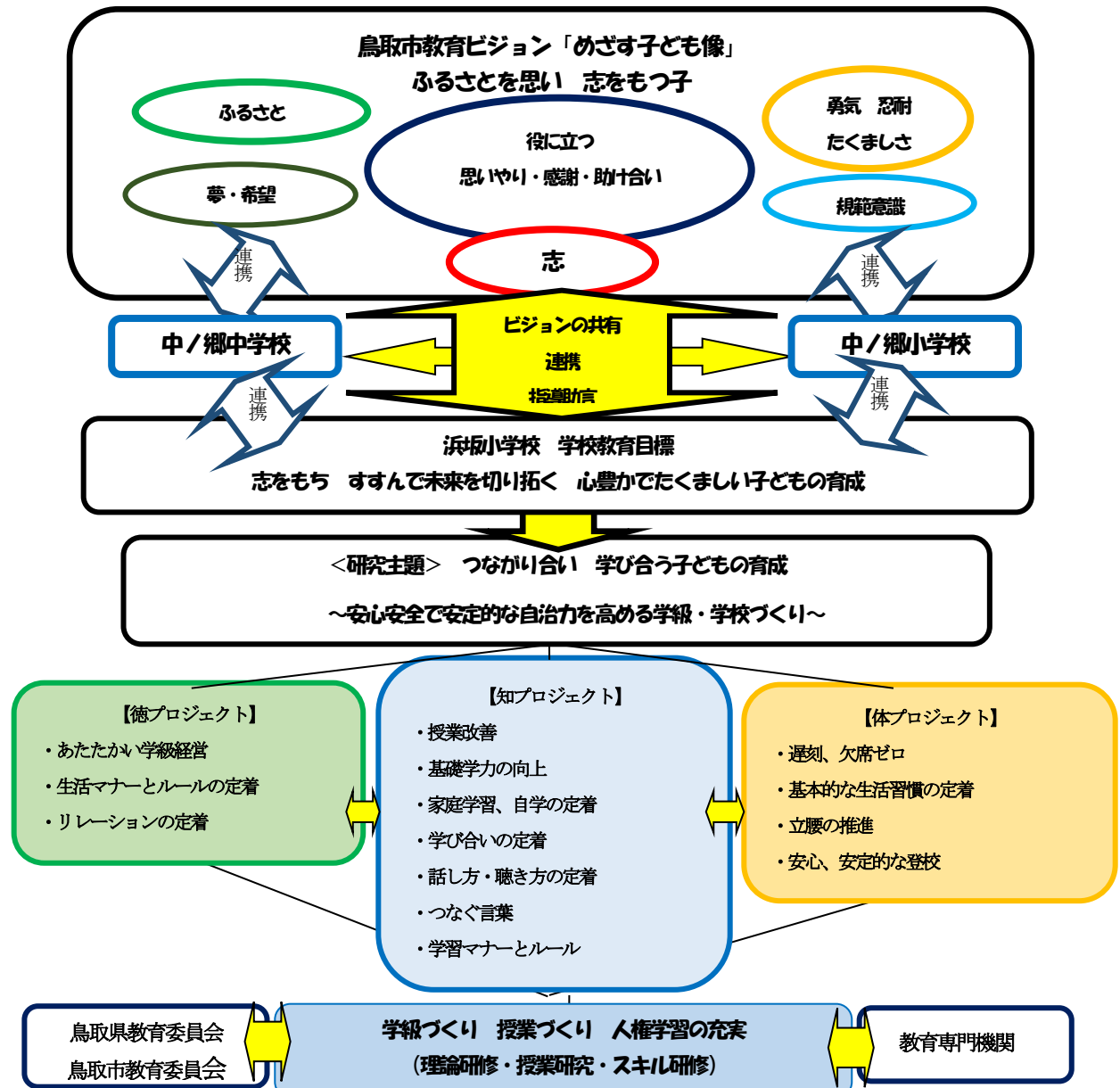
まず、「学級づくり」では、児童の自尊感情、学級での所属感を高め、安心して安全に過ごせる学校・学級にするため、「かかわり合い」を大切に学級活動を重点とした。特に、ルールとリレーショ

ンを意識した学級活動について研究を進め、安定的な学級集団づくりをめざすこととした。また、話し合い活動の充実やソーシャルスキルの定着により学級力を高め、学級や学校の自治力を高めることとした。

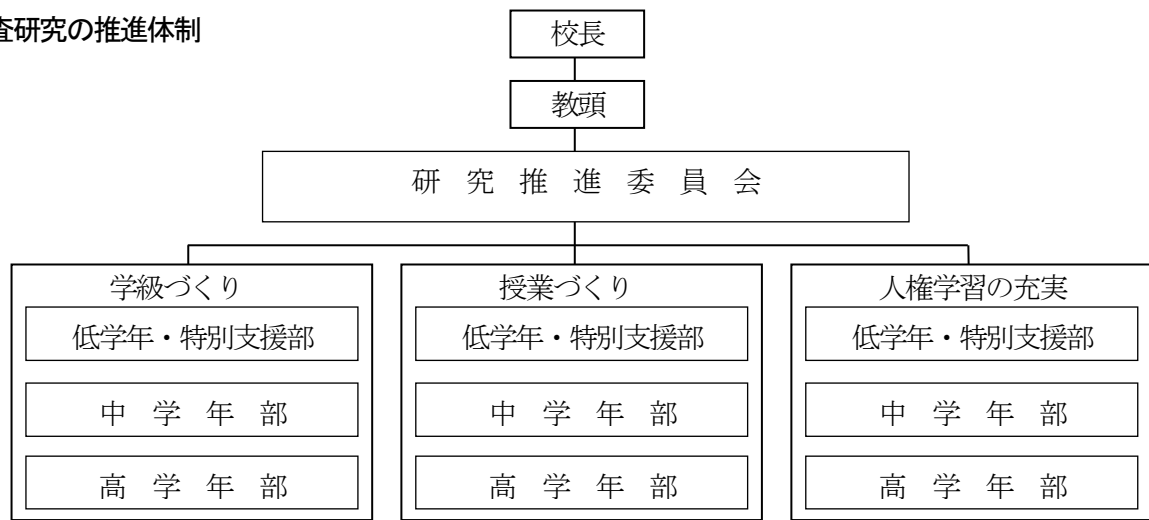
次に、「授業づくり」では、算数科を重点教科にすえ、「分かった できた 楽しい」と感じる授業づくりをめざし、ペア・グループ学習で学び合う授業を展開することとした。話し合い活動を大切にし、つながり合いながら児童一人一人が居場所を感じる授業を積み上げることで、能動的な傾聴、適切な自己表現につながるコミュニケーション力等が高まるとともに、学習を楽しみ感じ自尊心の高まる児童が増え、より主体的に授業に臨むようになることとした。

そして、「人権学習の充実」では、児童の実態に応じた学習教材を開発・実践することをとおして、人権を身近なものとしてとらえ、児童間のトラブル等に主体的に関わっていこうとする児童の育成を図ることとした。

3つの研究の柱の追求をとおして、本研究のテーマ「つながり合い学び合う子どもの育成」が実現できるものと考え研究を行うこととした。



3. 調査研究の推進体制



〈関係協力機関〉 ○鳥取県教育委員会 ○鳥取市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

①学級づくり

- アンケートや調査等の客観的な資料を活用した自治的な学級マネジメントの推進
 - ◇6月と12月の年2回Q-U調査を実施し、学級や児童の実態を把握した。また、学級力レーダーチャートを活用し、視覚的に見えてきた学級の課題について児童が議題を作成し、自分たちの力で解決に向けて話し合う取組を実践した。
- お互いの人権が守られるスキルトレーニングを活かした人間関係づくりの実践
 - ◇お互いを大切にしながら話し合うことができるよう、ソーシャルスキルトレーニングの手法を取り入れた。
- お互いの人権を認め合い人権意識を高め合う学級活動の展開
 - ◇協力して問題を解決する力、お互いの考えの違いを乗り越え折り合いをつけて意思決定する力、自分たちの生活の向上のために課題を見つけ出す力等がつくことを期待し、赤坂真二教授（上越教育大学）が提案するクラス会議（クラス全員が輪になって座り、クラスの課題、友達の悩み等の解決策をクラス全員で考えるもの）を行った。
 - ◇クラス会議では、学級全体にあたたかい雰囲気をつくと共に、安心して話せる受容的な空間をつくるため、話し合い活動に入る前に「ハッピー、サンキュー、ナイス」という児童同士の承認活動を行った。

②授業づくり

- 話し方・聴き方を大切にしながら感じる算数の授業づくり
 - ◇石田淳一教授（横浜国立大学）の理論をもとに、「算数シナリオ」（算数の授業における教師と児童との発言や振る舞いを子細に記述したもの）や「つたえ合い・学び合いカード」（話型やつなぐ言葉を示したもの）を活用し、話し合い指導を行った。
- 「分かった できた 楽しい」と感じるような算数の授業改善
 - ◇ペア・グループ学習など、かかわり合う活動を積極的に取り入れた授業展開、問題提示の仕方の工夫をし、児童の主体的な思考を促すような足場づくりの工夫を行った。
 - ◇「グループ学習の約束」を提示し、グループのみんなが主体的に学習に参加し、学び合うグループ学習をめざした。グループ学習後に教師は児童の考えをどのように取り上げ、どのように広げ・深めていくべきかなど、教師の働きかけ・言葉かけの在り方について研究を進めた。

③人権学習の充実

- 人との出会いや体験活動をもとにした人権感覚を育てる学習の開発と実践
 - ◇身近にある鳥取砂丘などの自然、先輩や地域に住む人材を活かした人との出会いや体験活動を中核においた学習の開発を行った。
 - ◇児童会執行部が中心となり、人権の花づくりによる環境づくり、縦割り班活動などの異学年交流

など、児童相互のつながりを縦横に広げる活動を行った。

◇スマイル月間（いじめ防止強調月間）には、「よりよい学級にしよう」という生活目標と関連づけながら、自分たちの学級を自分たちの力でよりよくしていこうという課題を設定し、クラス会議を行った。校区中学校の先輩が「いじめ防止」の劇を通して心に響くメッセージを届けた。

◇各種アンケートから分かる児童の実態を分析・把握し、気になる児童についての情報交換と対応の仕方、今後の方策、指導の在り方を検討した。

○総合的な学習の時間、道徳、学級活動における人権学習のカリキュラム・マネジメントの工夫

◇児童がよりよい人間関係の中で主体的に参加できるようにするため、地域の自然や地域の人材を活かした「協力」「参加」「体験」を中核においた学習を、学校行事、各教科や総合的な学習の時間、道徳、学級活動との関連を図り、年間計画に位置づけた。

時 期	内 容	備 考
4月 7日	第1回校内研究推進委員会	研究推進委員
4月13日	第1回校内研修会（特別支援教育～児童理解の会～）	全教職員
4月14日	人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委2人）	参加者5人
4月20日	第2回校内研修会 （今年度の研究推進、各プロジェクトによる提案、障がい者差別 解消法～合理的配慮について～）	全教職員
4月27日	第3回校内研修会（特別活動について）	全教職員
5月31日	第1回校内授業研究会（全体提案授業研究会・学級活動） 「自治的集団を育てる教師のリーダーシップ」 【指導助言・講義】赤坂 真二 教授（上越教育大学） 西垣栄太郎 指導主事（県教育委員会） 山本 裕児 指導主事（県教育委員会）	全教職員
6月 1日	第2回校内授業研究会（算数）	各学年
6月 3日	第3回校内授業研究会（算数）	低学年
6月 6日	第4回校内授業研究会（算数）	中学年
6月 7日	第5回校内授業研究会（全体提案授業研究会・算数） 「『学び合い』を楽しみ深める！グループ学習を取り入れた算数授業」 【指導助言・講義】石田 淳一 教授（横浜国立大学） 牧田礼次郎 係長（県教育委員会）	全教職員 校外参加者 31人
6月13日	第1回Q-U調査実施	
7月 7日	第6回校内授業研究会（学級活動）	各学年
7月13日	第7回校内授業研究会（学級活動）、第4回校内研修会（中間まとめ）	低学年、全教職員
7月15日	第1回児童アンケート、第1回算数アンケートの実施	
8月24日	第2回校内研究推進委員会、第5回校内研修会（研究の方向性について）	研究推進委員、全教職員
9月29日	第8回校内授業研究会（特別支援教育）	特別支援教育部員
10月12日	第3回校内研究推進委員会	研究推進委員
10月17～21日	第9回校内授業研究会（算数）	各学年
10月21日	第10回校内授業研究会（算数：小中連携授業力向上支援事業）	全教職員
10月25日	第11回校内授業研究会 （全体提案授業研究会・低・高学年別授業研究会・算数） 「『学び合い』の算数授業アクティブラーニング」 【指導助言・講義】石田 淳一 教授（横浜国立大学） 森田 泰弘 係長（県教育委員会） 西垣栄太郎 指導助言（県教育委員会）	全教職員 校外参加者 2人
10月31日	第12回校内授業研究会（学級活動）	各学年
11月 1日	第13回校内授業研究会（学級活動）	各学年

11月 2日	第14回校内授業研究会（全体提案授業研究会・学級活動） 【指導助言】 長見 圭祐 指導主事（県教育委員会）	全教職員
11月 8日	第15回校内授業研究会（学級活動）	各学年
11月22日	第2回Q-U調査実施	
11月24日	第16回校内授業研究会（学級活動）	各学年
11月26日	研究冊子の印刷・配布	100冊
11月28日	第17回校内授業研究会（学級活動）	中学年
12月 9日	文部科学省 平成28年度「人権教育研究推進事業」研究指定校 人権教育研究発表大会 【指導助言】 平山 晋治 指導主事（県教育委員会） 長見 圭祐 指導主事（県教育委員会） 森田 泰弘 係長（県教育委員会） 西垣栄太郎 指導主事（県教育委員会）	参加者20人
12月19日	第2回児童アンケートの実施	
1月17日	第2回算数アンケートの実施	
3月 1日	人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委10人）	参加者28人

（2）調査研究の成果と課題

〔成果〕

①学級づくり

◇「みんなと協力することは大切だ。」（児童アンケート項目①）という項目で、肯定的な回答の割合が高い数値で推移している。Q-U調査結果を踏まえた学級づくりを行ったことで、自分たちで自分たちの生活をよりよくしようという雰囲気が学級に育ってきた。

◇学級力レーダーチャートで学級の実態が見える化したことで、自分の学級のよさや改善点を共有できるようになった。

②授業づくり

◇共通実践をすることで、ペア・グループ学習などのかかわり合う活動を積極的に取り入れた授業展開がどのクラスにも定着した。

◇全国学力・学習状況調査の結果、質問紙の回答状況において「授業中にグループで課題を解決している。」（89.9%）「自分の考えを発表する機会が与えられている。」（91.0%）「算数の学習は大切である。」（94.4%）と肯定的な回答をする児童が多かった。「分かった できた 楽しい」と感じるような算数の授業改善に取り組んだことで、グループや学級のみんなに自分の考えや意見を発表したりする学習展開が定着した。また、教科に関する調査結果において算数Aでは正答率80.2%と、県平均より3.2ポイント、全国平均より2.6ポイント上回る結果になっており、基礎的な学力も定着しつつある。

③人権学習の充実

◇人権教育の視点に立った教科・領域・行事のカリキュラム・マネジメントを通して、教師自身が見通しを持ち、めざす子ども像の実現に向けて、人権教育の視点を意識して指導することができた。

◇全国学力・学習状況調査の結果、質問紙の回答状況において「人が困っていると、進んで助ける。」（91%）「人の役に立つ人になりたい。」（97.7%）など、人権意識に関わる項目で肯定的な回答をする児童が多かった。

◇「自分にはいいところがある。」（児童アンケート項目②）「自分の考えと違っていてもなるほどと思って受け入れられる。」（児童アンケート項目③）という項目で、肯定的な回答の割合が比較的高い数値を示している。これは、クラス会議や帰りの会などで、児童同士の承認活動や話し合い活動を多く行い、友達のよさを見つける活動や自他の意見の違いを認め合いながら話し合う活動を日常的に行った成果と言える。

〔課題〕

①学級づくり

◇学級力レーダーチャートから見える学級の課題や改善点について、「生活の中の課題と結びつける

力」「身近な問題に気づく力」「児童自身が積極的に課題を解決していこうとする力」がまだ弱く、今後ともこれらを育成していく必要がある。また、学級力レーダーチャートの学級の評価項目について積極的に検討するなど、児童がより主体的に学級マネジメントに参画できるように工夫する必要がある。

◇クラス会議で話し合われたことが、児童の日常生活で活かされ、学級の課題の解決に向けて具体的に行動できるように細かな手立てをしていく必要がある。

◇引き続き、Q-U調査や児童アンケート等で把握した児童の実態をもとに、気になる児童に対して具体的な手立てをしていきたい。

②授業づくり

◇算数アンケートから、算数が楽しい、好きと肯定的な回答をしている児童は比較的多いが、昨年度と比べるとやや数値が下がっている。また、算数に自信があるという児童は多くない。グループ学習のあり方と個々の力との関係を検証していく必要がある。

◇基礎学力の向上をめざし、各学年の基礎的な学習内容の積み上げを今後も継続していく必要がある。

◇全国学力・学習状況調査を通して、最も明確になった課題は「書く力」である。算数B問題では、理由や根拠を書く問題で、適切な言葉を使って説明することに課題がある児童が多い。グループで考えた算数用語を用いたよりよい説明の仕方が、児童個々の説明する力となるように、ノートにしっかりと書き、友達同士が説明し合う学習活動をもっと取り入れていく必要がある。

③人権学習の充実

◇児童アンケートにおいて「自分が好きだ。」という項目（項目④）では、依然として肯定的な回答の割合が上がっていない。人との出会いや体験を積み重ね、自分や友達のよさや違いを認めるような人権学習を展開していきたい。

また、自分や友達を大切にすることや、協力して生活することの大切さについては理解（項目①）しているが、「悪口いじめなどは、話し合って解決できる。」（項目⑤）「間違っている友達に注意することができる。」（項目⑥）では他の項目と比較して肯定的な回答の割合が低く、生活の中の課題を主体的に解決していこうとする態度や技能を身につけさせていく必要がある。

◇各種アンケート等から児童の実態をより詳細に把握し、気になる児童や支援が必要な児童の対応の仕方や今後の方策、指導の在り方について今後も検討していく必要がある。

【児童アンケート結果（肯定的な回答の割合）】

項目	H27.12	H28.7	H28.12
① みんなと協力することは大切だ。	97%	99%	98%
② 自分にはいいところがある。	87%	87%	88%
③ 自分の考えと違っていてもなるほどと思って受け入れられる。	91%	93%	92%
④ 自分が好きだ。	84%	84%	80%
⑤ 悪口いじめなどは、話し合って解決できる。	87%	87%	86%
⑥ 間違っている友達に注意することができる。	89%	89%	89%

【算数アンケート結果】

